

# 地元のエールが力になる 応援します！ 荒尾市選手団

9月18日(土)・19日(日)開催!

## 第65回熊本県民体育祭荒尾大会

⑬アーチェリー ⑭テニス ⑮ゲートボール

出会い  
ときめき  
県体



1 アーチェリー「実は見るよりも、やってみるほうが断然面白い競技です」と、アーチェリー協会理事長の平島さんは語ります。荒尾市の協会員は10人と、競技人口が少ないアーチェリーですが、今年は高校を卒業したばかりの若手が2人加盟しました。また、夜間照明の設置で練習量も増加し、チーム力をぐんぐん伸ばしているそうです。「とにかく触って魅力に触れて欲しい」と、今年の県体では会場に体験コーナーが設置されます。主婦になってからアーチェリーを始め、世界大会の選手として活躍する人もいるというアーチェリーは、選手としても長く活躍できる競技です。今年には若手とベテランが力を合



写真とインタビュー  
1 アーチェリー協会理事長 平島啓一郎さん(八幡台3丁目)  
2 テニス協会会長 田島衆一さん(東宮内)  
3 ゲートボール協会理事長 本村博郁さん(小野)

わせ、5位入賞を目標に練習に励んでいます。

2 テニス 昭和55年に荒尾で県体が開催されたときに、初めて正式種目になったテニス。「競技ももちろんですが、運営もがんばりたいですね」と話すのはテニス協会会長田島さん。県体のテニス競技の伝統が誇りだそう。テニス協会は現在およそ70人、小さな子どもから80歳以上までの人が所属していて、老若男女が楽しめる競技であることが魅力です。県内でも競技人口は比較的多く、実力ほどの自治体も拮抗しているそうです。そのため、僅差で勝敗を分ける緊迫したゲーム展開が見所です。荒尾市の主力選手は50歳代が中心で、若い選手が少ないのが課題ですが、来年から中体連の正式種目となるため、今後若い選手の活躍も期待できます。今年は一回戦突破を目指して練習に取り組んでいます。



3 ゲートボール 地域ごとの取り組みで盛り上がってきたこの競技は、日本発祥。現在は世界でプレーされる競技になりました。「レベルは年々上がっていますが、競技人口は減っているんです」と課題を話すのはゲートボール協会理事長の本村さん。5人による団体競技で、選手個人の実力がバランスが取れていること、主将を中心にチームワークがとても大切。また、先の先までゲーム展開を読みながらプレーする頭脳戦でもあります。「都会では若い人の競技人口が増えています。とても奥が深いので、やれば面白くてはまってしまいますよ」と笑顔で魅力を語ります。同時に、県体をきっかけに若い人への普及につなげたいとも話しました。県全体のレベルは高く、世界大会で優勝したチームもあります。現在強化練習中のゲートボールは、男女各チームともに上位入賞を目指し、一生懸命汗を流しています。

### 題字を書きました




荒尾第二小学校 2年 小山みりさん

「あーらお」の文字は、たくさん練習をかいたりして、休み時間はうさぎさんペンきょうでは図工と国語がすすみます。夏休みはペンきょうをがんばります。大きくなったら学校の先生になりたいです。

### ■ おもな内容 main contents

まちの話題	3・20
父子家庭の皆さんに児童扶養手当が支給されます	6
予防接種が受けられます	9
第17回あらお荒炎祭 プログラム	12
介護・福祉のしごと ふれあい就職フェア	15

- 荒尾市ホームページ (<http://www.city.arao.lg.jp>)
- 携帯電話専用ホームページ 二次元コード   
<http://www.city.arao.lg.jp/defaultM.aspx/>  
※通信費は閲覧者の負担です。

■ 声の広報 [文字による情報入手が困難な障がい者のための音声訳(録音版)広報誌](福祉課へおたずねください)